

第55号

Super Highway

JR東労組バス関東本部

発行日
2014. 11. 27

スーパーハイウェイ

発行責任者：遠山真一郎
編集責任者：中世古俊明
東京都渋谷区代々木2-2-6
JR新宿ビル13F
TEL03-3375-5076 (NTT)

申12号「北陸道高速バス事故を踏まえた安全確保に関する申し入れ」議事録確認締結！

2014年3月3日に発生した北陸自動車道小矢部川SAで、宮城交通の高速バスが駐車中のトラックに追突、乗客1名と運転士1名が死亡し、24名が負傷した重大事故。事故原因は未だ不明なものの、調査によると運転士が事故直前に何らかの体調異変を起こし、運転操作不能のままSAに進入し、駐車中の大型トラックに追突するという最悪の事態を招いた事故と分析されています。近年、運転士の病気が原因とみられる事故が続いており、国交省の調べでも全国の路線・貸切バスの運転士が意識を失うなどで起きた重大事故が増加の一途をたどっています。原因となる病気は脳梗塞やくも膜下出血、心筋梗塞や心不全などが多く、会社がおこなう定期健康診断でも高血圧・糖尿病等にかかる運転士が増加、今こそ業界全体の安全対策と健康管理が問われています。

JRバス関東本部は4月2日に申12号を会社へ申し入れ、北陸道高速バス事故を踏まえた安全対策を会社へ求め、議論を積み上げてきました。その交渉過程で疲労が蓄積されやすい乗務員の在宅休養時分の確保や、連続勤務を抑制すること、そして積極的な乗務員採用やソフト・ハード両面からの安全対策に関する議事録を締結しました。

★議事録確認のポイント

- 過労防止の観点から、休日の均等な配置や在宅時間の確保等に充分配慮した業務体制の構築に努めていく。
- 連続勤務日数に関しては、今後とも「7日に1回は休日を付与する原則を充分認識する」通達の趣旨を十分徹底していく。
- 要員不足に対しては、要員の適正な配置、不採算路線からの撤退、乗務行路の効率化と合わせ、積極的な乗務員の採用増に向けても現在取り組んでいる。
- 公休日前後の休養時間は39時間30分を下回らないように乗務割交番を作成してきたところであるが、やむえない場合に短縮する場合でも改善基準の範囲とする考えであり、その際は勤務指定明示の際に乗務員に対して周知していく。
- 安全運転支援装置を搭載した新型車両への積極的な更新を進めるとともに、既存車両についても後付可能な安全支援装置の搭載を早急に検討する。
- ダブルデッカー（2階建て）車の乗務員仮眠室の増強については保安基準に則るなかで検討する。
- 車両メーカーに対して乗客座席の3点式シートベルトを採用するよう要望していく。
- 社員の健康管理は最重要事項であるとの認識のもと、検査の対象となる分野（脳疾患、心疾患等）及び費用の会社負担について検討しているところである。

締結内容を職場で議論し「議事録確認を遵守させるたたかい」を全組合員で作りだし、安全で働きがいあるバス業界の確立を目指して奮闘していこう！！

